

文学館だより

令和 3 年 10 月 1 日
若山 牧水 記念 文学 館
TEL 0982 - 68 - 9511
文 責 日 高

稲穂が金色に波打ち、赤とんぼが稲田を飛び交う光景を目にするようになりました。
目で、肌で、秋を感じています。
行楽の秋、牧水公園探索はいかがですか。

9月17日 第71回 牧水祭 巖かに執り行われました



顕彰会会長による
裏山歌碑への献酒

右写真 は、
顕彰会役員による
夫婦歌碑への献酒

9月17日は、牧水先生の命日。
坪谷では、牧水祭が行われました。
ご案内のとおり、今年は、歌碑祭のみの開催でした。
地元の方の朗詠もありません。
東郷学園生徒の巫女献酒もありません。
坪谷小児童の牧水のうたもありません。
全国から牧水ファンをお呼びすることもできませんでした。

開始前には、これまでと同様、顕彰会会長は生家裏山に上り、「ふるさとの尾鈴のやまのかなしさよ秋もかすみのたなびきてとり」の歌碑に献酒をしてから、牧水祭に臨みました。
これまで毎年欠かさず行われてきている牧水祭。これまでの歴史を、今、途絶えさせる訳にはいかないという確固たる信念が実現へ突き動かしました。いかなる形であろうとも、牧水先生を慕う気持ちは何ら薄らぐものではありませんでした。
顕彰会役員の思いは、来年へ、しっかりつながりました。私たちは、今できる形で一歩ずつ歩みを進めています。



『牧水と時間を紡いだ百人』展 圧巻です



牧水先生と時代(とき)を同じく活躍した文化人が、ずらり文学館に並んでいます。
実は、これら1枚1枚、すべてデッサン画なんです。



この牧水先生もデッサン画です。
写真ではありません。

お近くの方、どうぞお越し
いただき、実際にご覧ください。
圧巻です。

作者は、こう言われました。
「若山牧水と同時期に生きた100人の文化人を1枚に表現した。
100人の長を重ね合わせ、当時の文化の匂いなどを感じてもらいたい。」と。
そして、
「国文祭・芸文祭を機に、日本全国へアピールしたい。」とも加えられました。

国文祭・芸文祭はまもなく閉幕しますが、文学館は長い閉館を終え、芸術・文化の秋、真っ盛りです。

『牧水と時間（とき）を紡いだ百人』展

作者 甲斐 猛義（かい たけよし） 東臼杵郡北川村（現延岡市北川町）出身
宮崎市在住

作品 1 牧水と時間（とき）を紡いだ百人 デッサン画
2 白鳥 F50号 アクリル画
3 幾山河 F50号 アクリル画

会場 若山牧水記念文学館（ギャラリー） 無料
ただし、展示室を見学される方は入館料を
いただきます。

期間 10月1日（金）～12月25日（土）
休館 月曜日
月曜日が祝日の場合は開館しています。



左 甲斐 猛義氏
右 顕彰会会長

甲斐さんも、牧水先生がご縁を結んでくださったおひとりです。こんなに早く個展が実現するとは思っていませんでした。甲斐さんの熱意が実を結びました。

国文祭・芸文祭みやざき2020 閉幕まぢか

短歌オペラ 若山牧水 海の声 山の声

10月16日（土） メディキット県民文化センター アイザックスターンホール
脚本：伊藤一彦 作曲・演出・指揮：仙道作三

若山牧水頌 師村妙石帰郷展

10月1日（金）～14日（木） 宮崎市佐土原交流プラザ ギャラリー
休館 火曜日

内容 書 篆刻 ザ テンコク こちらは無料でご覧いただけます

牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

杯をおかば語らむ言の葉の いまはつきなむごとくかなしく

大正4年7月、栃木県の友人、高塩背山たかしおはいざんを訪ねた時に詠まれ、第8歌集『砂丘』『友と相酌む歌』7首の中に収められている。

時とおき老樹の雫おつるごと静けき酒は朝にこそあれ
と同時期に詠まれたものである。

現在、開催中の三浦家寄贈資料公開展第2期に直筆掛け軸を展示している。（右参照）

蛇足であるが、高塩背山は、前に紹介した『牧水と時間（とき）を紡いだ百人』展にも登場している。併せてご鑑賞いただきたい。

